

2026 年 8 月 12 日

2026 年 7 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判・巻取ともに若干のスポット案件はあったものの、昨年同月比でほぼ同水準となった。
在庫について平判は若干増えたが巻取については前月の販売減の影響もあり、在庫量が減った。
（前年比 平判 100.2%・巻取 97.9%）

再生紙平判は役所、官公庁関連の定期誌以外のスポットが無く、昨年を大きく下回った。
再生紙巻取も目立ったスポット案件がなく、平判同様に昨年を大きく下回り、再生紙全体で昨年を大きく下回る形となった。
（前年比 平判 80.6%・巻取 78.8% 再生上質計 79.7%）

再生紙が昨年比で大きく落としたものの、印刷用紙 A 全体では昨年を若干下回る結果となった。また印刷用紙 A 全体の在庫量はほぼ昨年並みであった。
（前年比 印刷用紙 A 全体 99.8%）

<A2 コート>

平判は、夏の旅行やレジャー関連印刷物、スーパー、食品デリバリーチラシ等で動きがみられたがその他目立った動きは見られず、マットは昨年を少し上回ったが、グロスでは下回った。
巻取は、イベント関連印刷物、大学案内パンフレット等で動きがみられたが、ページや部数減が加速。保険関連の動きもあったが、グロス、マット共に昨年を大きく下回った。
（前年比 平判 98.6% 巻取 90.0% 全体 97.1%）

<A3 コート>

スーパーやホームセンター、食品デリバリーなどのチラシ案件で一部動きがみられ、ラテックス絡みによるリスクでずれ込んだ案件が一部動いたようだが、全体的には目立った動きは無く、平判は昨年を大きく上回り、巻取は大きく下回った。
（前年比 平判 113.6% 巻取 90.0% 全体 99.2%）

<ノーカーボン紙>

平判は自治体の福祉医療系帳票の動きは見られたものの、金融系の動きは低調だった。
巻取は生損保も細やかな案件に終始し民間の動きも鈍く、昨年を大幅に下回った。
（前年比 平判 88.2% 巻取 89.9%）

<上質フォーム>

健保系の案件や資格確認書の追加などの動きは見られたが、全体的には目立ったスポット案件もなく昨年を下回った。

(前年比 94.1%)

<包装用紙>

特殊両更・色クラフトは保険関係・不動産関係・食品会社の試供品の DM 等で動きが有り昨年を上回ったが、両更晒に関しては一部金融機関等の封筒で動きが有ったものの、全般的には低調で昨年を下回った。片艶晒は慢性的な在庫不足により昨年を下回った。

純白ロールはお盆の仏花向けで動きがあり、スーパーマーケット向けの包装紙も好調だった。また、一部では在庫不足の片艶晒からの移行や、大口スポットなども重なり昨年を大きく上回った。

包装紙全体では 99.9%とほぼ昨年と同様の動きと成った。

(前年比 99.9%)

<板紙>

コートボールは酷暑の影響で冷菓向けパッケージに動きが見られ、また、昨年は物価高の影響で全般的に低迷していたものの、日用品関連の動きが一部戻り、昨年を上回る。

特板は、昨年に見られた POP 向けやテイクアウト需要に目立った動きが見られず、また在庫不足の影響もあり、昨年を下回った。

高板は化粧品向けや、POP をはじめ商印関連にも動きが見られ、昨年を上回った。

チップボールは、出版用途においては全般的な低調が続くものの、トレーディングカード向け外装箱用途に一部動きが見られ、昨年を上回った。

全体としてはコートボールに見られるように、昨年低迷からの反動増として昨年を上回った。

(前年比 109.8%)